

ニューソフィア

New Sophia

75号

[vol.20-3]

福岡歯科大学は「口腔医学」を推進しています



Featuring News

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択

2

ブリテイッシュコロンビア大学への訪問

2

上海交通大学への訪問／中国医科大学からの訪問

3

Seasonal Topics

平成23年度事業報告及び決算

4

College News

城戸教授インタビュー／福岡歯科大学 創立40周年

6

The Campus' People

成瀬名誉教授 端玉小綬章受章

7

福岡歯科大学特待生・AO入試学術奨励金支給者
福岡医療短期大学特別奨学生・大学院特別奨学生・奨学生

7

Event

第15回学園体育祭／第6学年激励会／
同窓会オープンキャンパス

8

平成24年度父兄後援会支部懇談会開催日程

8

From The Alumni Association
同窓会だよ

9

Hi! From Clinic

寺谷歯科・矯正歯科クリニック（佐賀県佐賀市）
まるやまデンタルクリニック（大阪府吹田市）

10

Messages From Students & Parents
学生と保護者様からのメッセージ

11

Information

平成25年度入試日程

12

オープンキャンパス案内

12

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択

生 化学分野の早川浩教授を代表とする研究プロジェクト「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとゲノムの応答」が平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されました。助成金は5年間で120,000千円の前定です。

生物は様々な環境ストレスに対抗して生命を維持する能力をもっていますが、そのもとになる情報はゲノムの中に保持されており、ゲノム情報を安定的に維持し、情報を的確にとり出して応答する機構を明らかにすることが老化の進行や疾患を抑制する方策をたてるために必要です。本研究はそのような観点にたつて研究を進め、疾患の治療に役立つ情報を得るとともに老化の進行を抑える基盤を確立しようとするものです。



Certificate授与式(右から2番目が筆者)



Problem-based learningの様子

国際交流



ブリテイッシュコロロンビア大学 歯学部学生交換プログラムを終えて

6年生 西村 朋子

国際交流の盛んな大学で 世界各国の学生と交流。

4 月7日から4月20日の2週間、私たち小野由湖、小山美香、諫山浩之、西村朋子の6年生4名はカナダ・バンクーバーのブリテイッシュコロロンビア大学(UBC)歯学部(International Student Exchange Program)に参加させて頂きました。UBCは大学内に日本庭園や、人類学博物館、ビーチなどがあるととても大きな大学です。

昨年本学に来られたRavindra Shah先生がプログラムに参加する前からサポーターして下さい、UBCでのスケジュールも考えて下さいました。お天気に恵まれ桜が満開でとても良い時期でした。UBC歯学部は各学年55人です。カナダでは4年制大学を卒業した後、歯学部に入り、4年間勉強します。私たちは主に3、4年生の授業に参加しました。学生はカナダ人、インド人、中国人など様々でした。UBC歯学部は海外の歯学部と交換プログラムの協定を結んでおり、とても国際交流の盛んな大学です。同じ時期にオーストラリアの学生

とナイジェリアの学生もこのプログラムに参加していたので、交流することができました。

学生だけでのディスカッション、 活発な意見が飛び交う講義

毎 日バスでUBCまで通い、毎朝8時からの講義に参加し、3年生のPBL(problem based learning)という授業や、大学院生の講義を聞き、午後は病院見学をして過ごしました。UBCの歯学部では小児歯科をしていないので、時には、別の小児歯科の病院まで連れて行って頂いたり、nursing home(高齢者のための福祉施設)に行き見学させて頂いたりしました。日本との違いを知ることができました。

一番驚いたことは、学生が一人で診療をしていることです。要所ごとに先生のチェックを受けながら進めていて、様々な処置を行っていました。診療中でも患者さんと良く会話をしていたので患者さんも安心して診療を受けられていたように感じました。PBLという授業は一つの症例を与えられ学生だけでディスカッションをし、診断し治療法を考えていく授業です。1、2年生は週

3回、3年生は週1回あります。先生は学生のディスカッションを聞き時々アドバイスをされていますが、基本的には学生の評価をするだけで、ディスカッションには参加しません。

ディスカッション中は皆とても真剣で、活発な意見が飛び交います。教科書を見ずに意見を発言していく様子が普段から勉強していることが伝わりました。また、皆の前で堂々と自分の意見を発言し、説明している姿に圧倒されました。普段の講義でも、席は前から埋まり、授業中質問があれば積極的に挙手して聞くという熱心な姿勢に刺激を受けました。

またUBCの学生さんとはとても親切で、観光や食事に連れて行って貰い、とても楽しい時間が過ごせました。

私たちの将来を真剣に考える今の時期に、有意義な体験をさせて頂き視野が広がりました。また、この様な素晴らしい機会を与えて下さったことに感謝致します。プログラムで学んだことを将来に繋げていきたいと思えます。本当にありがとうございます。



歓迎式典での記念撮影

第に打ち解けていきました。帰国する頃には昔からの友人のようでした。研修以外にも市内や郊外の観光の機会もあり、さまざまな勢いで発展する中国と古い中国を感じることができました。

4月22日から29日までの8日間、私と城戸教授（口腔インプラント学分野）が学生7名を引率して、交流のために上海交通大学口腔医学院を訪れました。学生達は3班に分かれて第9人民医院で研修を受けましたが、中国全土からの多数の患者であふれる病院や圧倒的な数の症例に対して流れるように処置が行われていくのを目にして、中国の医療を肌感じて刺激を受けていました。学生も最初は緊張していましたが、上海交通大学の学生は非常に親切で、つきつきりで世話をしてください、次第に打ち解けていきました。帰国する頃には昔からの友人のようでした。研修以外にも市内や郊外の観光の機会もあり、さまざまな勢いで発展する中国と古い中国を感じることができました。

国際交流

上海交通大学口腔医学院への訪問と心の交流

診断全身管理学講座 麻酔管理学分野教授 谷口省吾

4月22日から29日までの8日間、私と城戸教授（口腔インプラント学分野）が学生7名を引率して、交流のために上海交通大学口腔医学院を訪れました。学生達は3班に分かれて第9人民医院で研修を受けましたが、中国全土からの多数の患者であふれる病院や圧倒的な数の症例に対して流れるように処置が行われていくのを目にして、中国の医療を肌感じて刺激を受けていました。学生も最初は緊張していましたが、上海交通大学の学生は非常に親切で、つきつきりで世話をしてください、次第に打ち解けていきました。帰国する頃には昔からの友人のようでした。研修以外にも市内や郊外の観光の機会もあり、さまざまな勢いで発展する中国と古い中国を感じることができました。

副院長の張建中教授には研修だけでなく、空港の送迎、観光、さらには懇親会など非常に親身になってお世話いただきました。上海交通大学は現在、日本では本学以外に5校と姉妹校関係にあるそうですが、張教授の「福岡歯科大学とは心の交流があり、一番親しい」という言葉は非常に印象的でした。9月には上海交通大学から6名の学生と3名の教員とが本学を訪問するという事で、再会を誓って上海を後にしました。研修と交流を通して得たものは大きく、特に学生にとって将来に役立つ有意義な経験になったと思います。すばらしい研修の機会を与えていただきありがとうございます。



上海交通大学学生との送別会

国際交流 中国医科大学口腔医学院の視察団が福岡歯科大学を訪れました。

5月8日から5月12日まで、遼寧省瀋陽市にある中国医科大学口腔医学院の路院長一行が福岡歯科大学を来訪されました。滞在中、本学附属病院や口腔医療センターの見学、福岡市観光等を行い、特別講義を通じて本学教授や学生との交流を深めました。9月には理事長をはじめ4名が中国医科大学を訪問し、両校の交流について協議する予定です。



公開イベント

福岡歯科大学 公開講座

お口とからだのアンチエイジング

キレイになるための美容医療と審美治療

日時 平成24年9月22日(土)・23日(日) 13:30~16:00 ※1日のみの参加も可能

場所 よみうりプラザ(福岡市中央区赤坂1-16-5 読売新聞西部本社1階)

一般の方を対象にした公開講座で、どなたでも受講できます。定員120名。

受講料 無料

9月22日(土) もっときれいに、若々しく。～元元に見るアンチエイジング～

講師:大野 知子(福岡歯科大学 口腔・顎顔面外科学講座 口腔顔面美容医療センター 助教)

9月23日(日) 美容医療はお口まわりから

講師:萩家 康弘(福岡歯科大学 口腔・顎顔面外科学講座 口腔顔面美容医療センター 准教授)

9月23日(日) 入れ歯でもっと豊かな生活を

講師:都築 尊(福岡歯科大学 咬合修復学講座 有床義歯学分野 講師)

若返り?インプラントで何がかわるか?

講師:松浦 正朗(福岡歯科大学 口腔医療センター センター長)

●申込方法

受講希望日、氏名、年齢、性別、住所、電話番号を明記の上、電話、FAX、E-mailまたはハガキで下記までにお申込みください。折り返し受講票をお送りします。

●申込及び問合せ先

福岡歯科大学 企画課 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
TEL:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678
E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp
福岡歯科大学ホームページ <http://www.fdcnet.ac.jp/>

福岡医療短期大学 公開講座

つなげよう絆 広げよう多職種連携

東日本大震災における医療・介護支援活動の経験から

日時 平成24年10月7日(日) 13:00~16:30

場所 福岡医療短期大学 307教室

講師 太田 秀人(歯科医師)、楢本 房枝(歯科衛生士)、竹下 洋平(薬剤師)
北口 大哉(介護福祉士)、今泉 佳代子(社会福祉士)

●申込方法:FAXでお申込みください。

●申込先:福岡医療短期大学 公開講座委員会

TEL:092-801-0923(内線199) FAX:092-801-4473

受講料 無料

※定員(120名)になり次第締め切らせていただきます。

第8回健康まるごと福岡学園

日時 10月27日(土)・28日(日) 場所 福岡歯科大学

福岡学園では、医療・保健・介護のみではなく、より広い分野での地域貢献を果たすため、「健康まるごと福岡学園」を開催します。

イベント

- 田の歯科祭 ● 講演会
 - からだの科学展 ● 医科ミニ講座 ● 歯科無料相談
 - 介護無料相談・介護施設見学 ● 短大企画 など
- 盛りだくさんの内容で皆様のご来場をお待ちしています。

●問合せ先:福岡歯科大学 企画課 〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1
電話:092-801-0411(内線508) FAX:092-801-3678
E-mail:kikaku@college.fdcnet.ac.jp

平成23年度事業報告及び決算

学校法人福岡学園の事業報告および決算が、5月22日開催の評議員会、理事会で承認されました。その概要は次のとおりです。

平成23年度(第40期)事業報告の概要

1 「口腔医学の学問体系的確立」について

理事長、常務理事、学部長等が国公私立歯科大学、歯学部および歯科医師会等に理解と協力を得るよう努めるとともに、文部科学省、厚生労働省および歯科・歯科関係学会等の理解を得るよう要請等を行いました。

また、文部科学省選定の戦略的学連携事業「口腔医学の学問体系的確立と医学・歯学教育体制の再考」(助成期間は平成20・22年度については「医学連携演習」をTV配信授業として開講するとともに「一般医学授業科目6科目と基礎医学のモデルシラバスを作成しました。

2 教育の改善・充実等について

(1) 文部科学省選定の大学教育改革GP(優れた取り組みの助成事業)として、大学では「臨床体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」を実施しました。短大では「短期大学教育力活用による学際的就業力育成」を実施しました(平成22年度から5年間の予定が国の「事業仕分け」により平成23年度限りで廃止)。

(2) 大学においては、口腔医学カリキュラム確立に向けた「教育課程表等の改定」、臨床実習充実のための「臨床実習の行動目標や評価基準の整備」、低学年教育の改善として新たに実施の「第1学年リミテッド教育授業」、研究マインド醸成のため第3学年後期カリキュラムに新たに開講した「基礎研究演習-助言教員が入学から卒業までの学生指導に活用する」学生指導記録簿の作成等を実施しました。

(3) 大学院においては、大学院PTを中心に口腔医学の理念に基づき、総合医学を充実させたカリキュラムの検討を行いました。

(4) 短大においては、本学園の医科歯

科総合病院へ介護施設サンシャインティ、サンシャインプラザとの協力により、より実践的な臨床臨床実習の充実に努めました。

(5) 教員の教育能力および教育の質の向上について、大学では新規採用教員教育研修会および新任大学院指導教員研修会を5月に実施、短大では毎月1回のFD講演会、毎週1回の合同抄読会を開始しました。

(6) 学生募集については、大学・短大ともに効果的な高校訪問や九州地区の進学相談会に積極的に参加するとともに、大学では新たにAO入試II期およびB日程試験にゼンター試験利用の併願制を導入しました。平成24年度入試結果は同窓会の協力も得て、大学・短大ともに昨年の入学者数を上回りましたが、大学では1名、短大保健福祉学部では5名の定員未充足となりました。

(7) 第105回歯科医師会国家試験は、既卒者を含めた総合合格率が66.9%で私立歯科大学中8位でした。なお、短大の「第21回歯科衛生士国家試験」は3年連続で100%合格を達成しました。

3 研究の活性化について

(1) 先端科学研究センターの研究は、5年計画の4年目に当たり、研究経費を重点配分し研究推進に努めました。なお、関連する研究プロジェクト「老化の抑制と疾患の制御における環境ストレスとケノムの応答」を平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に応募しました。平成24年4月に文部科学省から採択通知がありました。

(2) 再生医学研究センターの「生体内環境を調和する硬組織再建システム」に関する研究について、平成23年5月に研究成果報告会、24年1月にシンポジウムを開催しました。

(3) 科学研究費獲得PTを学内に立ち上げ、研究計画のブラッシュアップ等に努めた結果、前年度比で新規採択件数が15件の増、補助金総額が

1,486万円の増となりました。

4 社会連携・国際交流について

(1) 医科歯科総合病院では、病診連携の促進等に努めるとともに、診療参加型臨床実習の充実のため患者増に努めましたが、外来患者数は1日平均5,797.7人で前年度比3.1%増、入院患者数は28.8人で1.9%減となりました。

(2) 口腔医療センター(口腔医療に貢献するための地域連携拠点を平成23年12月に博多駅前開設)順調にスタートしました。

(3) 介護老人保健施設では、居宅介護支援事業所や地元公民館の協力を得るなど利用者拡大に努めましたが、前年度比で入所者は0.2%減、通所者は1.5%減となりました。

(4) 国際交流では、大学がブリティッシュコロンビア大学、上海交通大学、慶熙大学、ヤンゴン歯科大学と学生交流・学術交流を実施しました。短大は歯科衛生学3年次学生が姉妹校である東釜山大学を相互訪問のため訪問しました。

5 組織運営の改善・効率化等について

(1) 法人名については、歯科医学教育をはじめ医療、保健、福祉の充実・発展に寄与する総合学園として「学校法人福岡学園」に改めることが文部科学省から認可されました。

(2) ボードでは、理事長および学長のリーダーシップの下、全組織の運営が円滑に行われていますが、それを補完するための各種委員会の迅速審議や重要案件決定に必要な情報の整理・提供、コスト削減を踏まえた会議資料の簡明化等に引き続き努めました。

(3) 全学情報ネットワーク環境の安全維持のため「福岡学園情報セキュリティポリシー」を策定し、情報システム委員会に教育情報医療情報情報基盤の各システムの管理運用専門部会を設け、学園関係情報の管理徹底や業務の効率化に資することとしました。

(4) 総合病院の老朽化対策のため、病院将来構想検討委員会において新病院の開設に関する検討が行われています。

今日の急激な社会変化の中で、本学は平成24年に創立40年の節目の時を迎えます。全ての役員・教職員が本学のミッションを共有し、国民から信頼される歯科医師等の育成を通じて、教育・研究・医療等の革新・充実・地域への貢献に引き続き努めてまいります。

平成23年度(第40期)決算の概要

平成23年度の資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び財産目録の概要は次のとおりです。

1 資金収支計算書

収入の部では、学生生徒等納付金収入33億5,005万円、補助金収入3億6,112万円、事業収入19億9,855万円など収入合計は124億4,199万円となり、これに前年度繰越支払資金8億1,246万円を加えた収入の部合計は132億5,443万円となりました。

一方、支出の部では、人件費支出33億4,071万円、教育研究経費支出13億7,363万円、施設関係支出2億2,818万円、設備関係支出3億3,995万円など支出合計は127億3,555万円となり、収入の部合計からこれを差し引いた次年度繰越支払資金は5億5,082万円となりました。

主な内容は次のとおりです。

【収入の部】

(1) 学生生徒等納付金収入は、在籍学生数を基に減額補正したことにより概ね予算額と同額の33億

5,005万円となりましたが、平成23年度入学生より教育充実資金を16,000万円引き下げたことにより対前年度比6.967万円の減収となりました。

(2) 補助金収入は、経常費補助金及び臨床研修費補助金等の減により対前年度比2億3,684万円の減収となり、予算額を1億2,888万円下回る3億6,112万円となりました。

(3) 事業収入は、口腔医療センターの開設等により対前年度比5,039万円の増収となり、概ね予算額と同額の19億9,855万円となりました。このうち、病院医療収入は14億1,020万円、口腔医療センター医療収入は2,099万円、老健施設介護収入は4億3,735万円となりました。

(4) 人件費支出は、退職者数の減に伴う退職金の減により前年度比2億3,569万円の減となり、予算額を1億7,196万円下回る33億4,071万円となりました。

(5) 施設関係支出は、口腔医療センターの設置工事等により前年度比1億2,818万円の増となりましたが、概ね予算額と同額の3億3,995万円となりました。

(6) 設備関係支出は、口腔医療センターの機器備品等の購入により前年度比3,995万円の増となりましたが、概ね予算額と同額の3億3,995万円となりました。

(7) 消費収支計算書
消費収入の部では、帰属収入合計は69億4,817万円となり、基本金組入額合計21億8,618万円を差し引いた消費収入の部合計は47億6,199万円となりました。

一方、消費支出の部では、消費支出の部合計は53億8,810万円となり、消費収入の部合計からこれを差し引いた当年度消費支出超過額は6

億2,611万円となりました。これに前年度繰越消費収入超過額36億6,204万円と基本金取崩額7,035万円を加えた翌年度繰越消費収入超過額は31億6,288万円となりました。

また、人件費率は46%、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額は15億6,007万円、帰属収支差率率は22.5%となり、財務の健全性を維持しています。

3 貸借対照表

資産の部合計は、第3号基本金(教育研究基金引当資産)への組入れのため債券購入等により対前年度比6億4,491万円の増の57億9,194万円となりました。

負債の部合計は、退職給付引当金等対前年度比9億1,516万円の減の26億6,960万円となりました。基本金の部合計は、第1号基本金への組入れ4億4,166万円、第3号基本金(教育研究基金)引当資産への組入れ15億9,000万円により対前年度比1,582万円の増の51億6,006万円となりました。

消費収支差額の部合計は、対前年度比5億5,576万円の減の31億6,288万円となりました。

4. 財産目録
資産の部は、土地、建物等の基本財産40億6,401万円と減価償却引当特定資産等の運用財産16億7,993万円の合計で57億3,995万円となりました。

負債の部合計は26億6,960万円で、資産の部合計額、負債の部合計額とも貸借対照表の合計額と一致しています。

差し引いた差引正味財産は、対前年度比15億6,007万円の増の54億2,234万円となりました。

平成23年度(第40期)資金収支決算総括表

(平成23年4月1日~平成24年3月31日)

(単位:円)

収入の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額
学生生徒等納付金収入	3,348,550,000	28.18	3,350,050,000	26.93	△1,500,000
手数料収入	20,968,000	0.18	21,133,830	0.17	△165,830
寄附金収入	24,150,000	0.20	25,212,195	0.20	△1,062,195
補助金収入	490,000,000	4.12	361,121,303	2.90	128,878,697
国庫補助金収入	489,915,000	—	346,388,000	—	143,527,000
地方公共団体補助金	85,000	—	14,533,303	—	△14,448,303
その他補助金収入	0	—	200,000	—	△200,000
資産運用収入	757,090,000	6.37	785,831,048	6.32	△28,741,048
資産売却収入	1,860,811,000	15.66	1,478,923,850	11.89	381,887,150
事業収入	1,892,067,000	15.92	1,909,845,750	15.35	△17,778,750
雑収入	59,765,000	0.50	168,954,831	1.36	△109,189,831
前受金収入	656,600,000	5.53	540,928,700	4.35	115,671,300
その他の収入	3,782,572,000	31.84	4,870,257,887	39.14	△1,087,685,887
資金収入調整勘定	△1,010,894,000	△8.50	△1,070,350,925	△8.61	59,456,925
(小計)	(11,881,679,000)	(100.00)	(12,441,908,469)	(100.00)	(△560,229,469)
前年度繰越支払資金	812,457,000	—	812,457,301	—	△301
収入の部合計	12,694,136,000	—	13,254,365,770	—	△560,229,770

支出の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額
人件費支出	3,512,673,000	28.80	3,340,714,107	26.30	171,958,893
教育研究経費支出	1,363,601,000	11.18	1,373,627,842	10.81	△10,026,842
管理経費支出	305,663,000	2.51	216,145,894	1.70	89,517,106
施設関係支出	194,248,000	1.59	228,175,500	1.80	△33,927,500
設備関係支出	288,734,000	2.37	303,949,346	2.39	△15,215,346
資産運用支出	5,956,348,000	48.83	6,901,782,350	54.33	△945,434,350
その他の支出	599,746,000	4.92	619,244,095	4.87	△19,498,095
[予備費]	(500,000)	2.46	—	—	299,500,000
資金支出調整勘定	△299,500,000	△2.66	△280,091,294	△2.20	△43,008,706
(小計)	(12,197,413,000)	(100.00)	(12,703,547,840)	(100.00)	(△506,134,840)
次年度繰越支払資金	496,723,000	—	550,817,930	—	△54,094,930
支出の部合計	12,694,136,000	—	13,254,365,770	—	△560,229,770

平成23年度(第40期)消費収支決算総括表

(平成23年4月1日~平成24年3月31日)

(単位:円)

消費収入の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額
学生生徒等納付金	3,348,550,000	50.72	3,350,050,000	48.21	△1,500,000
手数料	20,968,000	0.32	21,133,830	0.30	△165,830
寄附金	34,150,000	0.52	42,038,477	0.61	△7,888,477
補助金	490,000,000	7.42	361,121,303	5.20	128,878,697
国庫補助金	489,915,000	—	346,388,000	—	143,527,000
地方公共団体補助金	85,000	—	14,533,303	—	△14,448,303
その他補助金	0	—	200,000	—	△200,000
資産運用収入	757,090,000	11.47	785,831,048	11.31	△28,741,048
事業収入	1,892,067,000	28.66	1,909,845,750	27.49	△17,778,750
雑収入	59,765,000	0.89	478,151,148	6.88	△418,386,148
(帰属収入合計)	(6,602,590,000)	(100.00)	(6,948,171,556)	(100.00)	(△345,581,556)
基本金組入額合計	△2,570,152,000	—	△2,186,177,625	—	△383,974,375
消費収入の部合計	4,032,438,000	—	4,761,993,931	—	△729,555,931

消費支出の部	予 算		決 算		差 異
	金 額	構成比%	金 額	構成比%	金 額
人件費	3,317,073,000	57.06	3,254,358,548	60.40	62,714,452
教育研究経費	1,861,389,000	32.02	1,875,534,867	34.81	△14,145,867
管理経費	335,309,000	5.77	244,930,666	4.55	90,378,334
資産処分差額	0	0.00	6,029,428	0.11	△6,029,428
徴収不能引当金繰入額	0	0.00	170,946	0.00	△170,946
徴収不能額	0	0.00	7,080,840	0.13	△7,080,840
[予備費]	(500,000)	5.15	—	—	299,500,000
(消費支出の部合計)	(5,813,271,000)	(100.00)	(5,388,105,295)	(100.00)	(425,165,705)
当年度消費支出超過額	1,780,833,000	—	626,111,364	—	1,154,721,636
前年度繰越消費収入超過額	3,662,040,000	—	3,662,039,570	—	50,430,430
基本金取崩額	0	—	70,355,163	—	△70,355,163
翌年度繰越消費収入超過額	1,881,207,000	—	3,106,283,369	—	△1,225,176,369

貸借対照表

(平成24年3月31日)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	(56,452,772,710)	(55,335,068,300)	(1,117,704,410)
有 形 固 定 資 産	(11,243,388,889)	(11,266,187,669)	(△22,798,780)
土 地	2,853,955,052	2,853,955,052	0
建 物	5,099,225,672	5,100,576,221	△1,350,549
構 築 物	184,230,285	196,521,175	△12,290,890
教育研究用機器備品	1,494,562,699	1,535,471,820	△40,909,121
その他の機器備品	33,099,522	33,497,490	△397,968
図 書	1,574,645,227	1,543,572,725	31,072,502
車 輛	3,670,432	2,593,186	1,077,246
その他の固定資産	(45,209,383,821)	(44,068,880,631)	(1,140,503,190)
電 話 加 入 権	1,705,991	1,705,991	0
敷 金 保 証 金	59,138,900	17,850,000	41,288,900
教育研究用ソフトウェア	6,272,700	8,290,800	△2,018,100
その他のソフトウェア	9,822,330	12,592,440	△2,770,110
有 価 証 券	2,031,455,050	2,084,971,400	△53,516,350
退職給与引当特定資産	1,663,500,000	2,250,500,000	△587,000,000
減価償却引当特定資産	8,946,000,000	8,946,000,000	0
施設設備充実引当特定資産	3,100,000,000	3,100,000,000	0
第2号基本金引当資産	9,022,008,850	8,800,000,000	222,008,850
第3号基本金引当資産	19,949,480,000	18,426,970,000	1,522,510,000
第4号基本金引当資産	420,000,000	420,000,000	0
流 動 資 産	(939,166,565)	(1,411,964,914)	(△472,798,349)
現 金 預 金	550,817,930	812,457,301	△261,639,371
未 収 入 金	327,545,479	537,702,194	△210,156,715
貯 蔵 品	3,690,225	5,162,232	△1,472,007
前 払 金	57,112,931	56,643,187	469,744
資産の部合計	57,391,939,275	56,747,033,214	644,906,061

1. 重要な会計方針

(1)引当金の計上基準

退職給与引当金 / 退職金の支給に備えるため、期末要支給額1,663,415,948円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。
徴収不能引当金 / 未収入金等の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

財産目録総括表

(平成24年3月31日)

資産の部	金 額
I. 基本財産	40,604,006,150
固定資産	40,604,006,150
(1)有形固定資産	11,153,427,379
(2)その他の固定資産	29,450,578,771
II. 運用財産	16,787,933,125
1. 固定資産	15,848,766,560
(1)有形固定資産	89,961,510
(2)その他の固定資産	15,758,805,050
2. 流動資産	939,166,565
資産の部合計	57,391,939,275

(単位:円)

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	(1,693,087,184)	(2,097,127,248)	(△404,040,064)
退職給与引当金	1,663,415,948	2,058,214,164	△394,798,216
長期未払金	27,140,148	36,381,996	△9,241,848
長期預り金	2,531,088	2,531,088	0
流 動 負 債	(976,512,045)	(1,487,632,181)	(△511,120,136)
未 払 金	261,408,627	563,797,437	△302,388,810
前 受 金	549,528,700	746,093,500	△196,564,800
預り金	165,574,718	177,741,244	△12,166,526
負債の部合計	2,669,599,229	3,584,759,429	△915,160,200

基本金の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	22,224,567,827	21,853,264,215	371,303,612
第 2 号 基 本 金	9,022,008,850	8,800,000,000	222,008,850
第 3 号 基 本 金	19,949,480,000	18,426,970,000	1,522,510,000
第 4 号 基 本 金	420,000,000	420,000,000	0
基本金の部合計	51,616,056,677	49,500,234,215	2,115,822,462

消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	3,106,283,369	3,662,039,570	△555,756,201
消費収支差額の部合計	3,106,283,369	3,662,039,570	△555,756,201

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	57,391,939,275	56,747,033,214	644,906,061

2. 減価償却額の累計額 / 11,056,285,997円

3. 徴収不能引当金の合計額 / 170,946円

4. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 / 38,068,810円

5. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1)関連当事者との取引 / 記載すべき関連当事者との取引はない。

※資金収支計算書:当該会計年度の諸活動に対するすべての資金の収支を明らかにするもの
※消費収支計算書:民間企業の損益計算書に該当するもので、財政の健全化を測定する尺度となるもの
※貸借対照表:当該会計年度末の資産及び負債・基本金・消費収支差額の状況を表すもの
※帰属収入:学生生徒等納付金、寄附金、補助金その他の学校法人の負債とならない収入

※消費支出:人件費、教育研究経費、管理経費などの学校法人の経常的支出
※人件費比率:(人件費/帰属収入)×100
※帰属収支差額比率:((帰属収入-消費支出)/帰属収入)×100

インタビュー 城戸教授に インタビュー

簡単なプロフィールを
お教えください。

福岡県行橋市の出身です。高校は豊津高校で、大学は本学ですね。卒業してすぐ九州歯科大学の有床義歯の教室にお世話になりました。九歯大に在籍していたときに4カ月ほど東京医科歯科大学に勉強しに行ったのですが、そのときにキリッシュ先生というドイツの有名なインプラント専門家の講演を聴いて感動しまして、「これからはインプラントだ」と思いました。

本学でのインプラント教育についてお教えください。

インプラント教育は、うちの教室がずっと力を入れていることです。僕はここに99年に赴任したんですけど、卒前のインプラント教育はぜひやりましょうって松浦先生にお願いして、佐藤先生や当時の羽生先生、高橋先生に協力していただいて、全国の歯学部の中でもいち早く卒前教育としてインプラントの実習を始めたんですよ。で、ここ4、5年は卒業教育もやろうということ、で、初級コースとか中級コースとかいろいろ始めてます。それまでのインプラント教育というのは、結構長い間インプラントメーカー主導だったんですよ。

口腔インプラント学分野
城戸 寛史 教授



それから、同窓会主催の研修とか国際学会の研修も手伝っています。ICOIという学会なんですけども、そのバイスプレジデントをやっています。インプラントの国際学会では唯一資格制度を持っているんです。その資格試験を受けるお手伝いをするコースというのを同窓会にお手伝いいただいて開催しています。

城戸先生といえばラグビー部という印象がありますが…

ラグビー部に対する思い入れは、自分が一生懸命やったスポーツなのでそれをやっている後輩はほっとけないなというような気持ちですね。本学に戻ってきた当初は、見に行くとはまってしまつと自分でわかっていたので距離を置いていたんですけども、5、6年前に監督をしたらどうかと言われまして。まあラグビーに限らず運動部でがんばっている学生さんは応援してあげたいという気持ちです。

大学ホームページの「教員インタビュー<http://www.fdcnet.ac.jp/col/interview/index.html>」にも城戸先生インタビューのロングバージョンがございます。あわせてご覧下さい。

福岡歯科大学は今年、創立40周年を迎えます。

今後、様々な
記念イベントを計画
しております。

創立40周年記念イベントスケジュール

- 10月20日(土)／記念式典・祝宴
- 10月27日(土)・28日(日)／学生イベント(学園祭「田の歯科祭」と併催)
- 11月18日(日)／口腔医学国際シンポジウム(福岡歯科大学学会総会と併催)

※上記は主に学内の施設を利用して開催します。内容などは変更になる場合があります。

福岡歯科大学は、「教養・良識および国際感覚を備えた優秀な歯科医師を育成し、社会福祉に貢献するとともに、歯科医学の進展に寄与すること」を教育目標として開学。以来40年を経て、約4000名の卒業生を輩出し、全国でも有数の歯科医学教育・研究の場として成長して参りました。

福岡歯科大学創立40周年記念 ロゴマーク公募選考結果

創立40周年を記念し、3月2日～30日までの期間、大学の発展をイメージしたロゴマークを募集いたしました。その結果、教職員、学生の皆様よりロゴマーク16点の応募がありました。

学内での厳正な審査の結果、本学事務職員 田島大寛さん(総務課主任)がデザインされた作品が福岡歯科大学創立40周年記念のロゴマークとして選定され、5月28日に田中理事長より賞状および副賞が贈られました。



同窓会主催

創立40周年記念特別講演会開催

福岡歯科大学創立40周年を記念して、同窓会主催により5月26日(土)に福岡ガーデンパレスで特別講演会が開催されました。

本学園の田中健蔵理事長を講師に「口腔医学の学問体系の確立と医歯二元論の再考」について講演が行われ、我が国の歯科医学や歯科医療の発展の経緯についての歴史的な事象、今日の歯科医療・医療環境等の変化や社会のニーズを踏まえた将来の歯科医学・歯科医療の在り方等について示されました。

また、同窓生の先生方のご尽力に対して深く敬意と感謝の意を述べられるとともに、40周年の節目を迎え、新たな決意のもとに、今後も次代を担う人間性豊かな歯科医師の育成を目指して更なる努力したい旨述べられました。



挨拶を述べる宮口同窓会長



講演を行う田中理事長



平成24年度の科学研究費補助金が決定しました

文部科学省、日本学術振興会から交付される平成24年度の科学研究費補助金対象研究等が決定しました。

福岡歯科大学の交付決定件数は50件、交付額は96,850千円となり、昨年より2,900千円増加しました。

また、福岡医療短期大学の交付決定件数は5件、交付額についても、1,820千円増加し、5,330千円となりました。

(なお、研究活動スタート支援については現在、申請中です。)

税額控除対象法人の証明を取得

本学園は、平成24年5月30日付けで文部科学省から「税額控除対象法人」としての証明を取得しました。これにより、個人が本学園に寄附をされた場合、新たに「税額控除制度」の適用を受けられるようになり、寄附者は、税制上の優遇措置を受けることができます。「税額控除」は、従来の「所得控除」に比べほとんどの場合で減税効果が大い点が特徴です。但し、本年5月29日までにいただいた御寄附には適用されませんのでご了承ください。

お問い合わせは財務課092-801-0411(内線553)まで。

福岡歯科大学特待生

福岡歯科大学の平成24年度特待生に次の12人が選ばれました。特待生は、平成23年度の学業成績(第1学年については入学時)が特に優秀で、品行方正、かつ健康な学生が選ばれ、その年度の授業料の半額が免除されます。

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
 江頭 優希	 石川 翔子	 新郷 雅史	 大島 優	 安永 まどか	 小野 由湖
 田邊 千絵	 森 志穂美	 安田 梨沙	 中嶋 宏樹	 柴田 華衣	 二反田 詩織

成瀬名誉教授に 端宝小綬章

平成24年春の叙勲で福岡歯科大学名誉教授の成瀬悟氏が永年にわたる教育研究功勞により端宝小綬章を受章されました。



略歴
昭和26年3月 大阪歯科大学専門学校(現:大阪歯科大学)卒業
昭和47年8月 福岡歯科大学教授就任
平成5年3月 福岡歯科大学退職
平成5年6月 福岡歯科大学名誉教授

福岡歯科大学一般入学試験A日程特待生

一般入学試験A日程特待生に次の2人が選ばれました。特待生は、平成24年度一般入学試験A日程における成績が特に優秀であり、品行方正かつ健康な入学生に与えられ、年間授業料が約296万円免除されます。

第1学年

 篠田 貴子	 樋口 いづほ
---	--

福岡歯科大学AO入試学術奨励金支給者

平成23年度の学業成績が優秀で、AO入学試験学術奨励金(年額120万円)の継続受給の基準を満たしていたので、次の2名に今年度も引き続き同奨励金が授与されました。

第2学年	第3学年
 秋山 史織	 後藤 碧

福岡医療短期大学特別奨学生

福岡医療短期大学の平成24年度特別奨学生に次の7人が選ばれました。特別奨学生は、その年度の授業料の半額が免除されます。

歯科衛生学科2年次			歯科衛生学科3年次			保健福祉学科2年次
 石橋 玲奈	 増田 百恵	 吉川 美由紀	 中野 六月	 古瀬 恵	 中西 愛里	 田中 一成

平成24年度福岡歯科大学大学院特別奨学生等

福岡歯科大学大学院特別奨学生(修学資金として毎月16万円を支給)として次の10人が選ばれました。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 《第4学年》坂井 拓弥 (口腔インプラント学) | 《第2学年》伊波 幸作 (総合歯科学) |
| 《第4学年》佐野 しおり (歯周病学) | 《第2学年》佐々木 三奈 (口腔腫瘍学) |
| 《第3学年》加地 千晶 (障害者歯科学) | 《第2学年》山之内 香 (矯正歯科学) |
| 《第3学年》篠崎 陽介 (口腔インプラント学) | 《第1学年》谷口 祐介 (口腔インプラント学) |
| 《第3学年》府川 晃久 (口腔腫瘍学) | 《第1学年》野口 哲司 (高齢者歯科学) |

福岡歯科大学大学院奨学生(修学資金として授業料相当額70万円を支給)として次の10人が選ばれました。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 《第3学年》太田 信敬 (口腔腫瘍学) | 《第3学年》森 南奈 (歯周病学) |
| 《第3学年》堤 貴司 (有床義歯学) | 《第3学年》安野 貴美恵 (口腔インプラント学) |
| 《第3学年》長谷 英明 (有床義歯学) | 《第3学年》山内 由宣 (矯正歯科学) |
| 《第3学年》秦 省三郎 (矯正歯科学) | 《第2学年》長岡 良礼 (口腔外科学) |
| 《第3学年》濱中 一平 (有床義歯学) | 《第2学年》永沼 香織 (口腔外科学) |

福岡歯科大学大学院RA、TA決定

福岡歯科大学大学院の平成24年度リサーチアシスタント(RA)及びティーチングアシスタント(TA)に次の方が採用されました。

リサーチアシスタント(RA)		ティーチングアシスタント(TA)	
《第4学年》王 東江 (口腔インプラント学)	《第4学年》西村 紗和 (矯正歯科学)	《第3学年》村上 弘 (歯周病学)	《第2学年》吉良 迪子 (成育小児歯科学)
《第4学年》藤本 暁江 (総合歯科学)	《第4学年》堀越 恵美子 (矯正歯科学)	《第2学年》坂井 真実子 (矯正歯科学)	《第2学年》水上 正彦 (歯科保存学)
《第3学年》内山 貴誠 (矯正歯科学)	《第3学年》鴨川 和子 (口腔インプラント学)	《第1学年》大石 桂子 (障害者歯科学)	《第1学年》陶山 大輝 (矯正歯科学)
《第3学年》友岡 みわ (障害者歯科学)	《第3学年》半田 千恵 (矯正歯科学)	《第1学年》瀬野 恵衣 (総合歯科学)	《第1学年》田村 翔悟 (成育小児歯科学)
《第2学年》川越 慈 (矯正歯科学)	《第2学年》高田 俊輔 (矯正歯科学)	《第1学年》戸田 雅子 (成育小児歯科学)	《第1学年》比嘉 ありさ (成育小児歯科学)
《第2学年》廣松 亮 (歯周病学)	《第2学年》宮崎 綾子 (矯正歯科学)	《第1学年》藤田 隆寛 (矯正歯科学)	《第1学年》松尾 嘉之 (矯正歯科学)
		《第1学年》丸尾 直樹 (歯周病学)	

オープンキャンパス

同窓会オープンキャンパスを開催

5月27日、福岡歯科大学の同窓生の子弟を対象としたオープンキャンパスを開催しました。受験生をはじめ、歯学に興味を持つ高校1,2年生も多数参加し、盛況のうちに終了しました。参加者からは、在学生との対談や実習を通じて授業の雰囲気を経験する事で、歯科大学がより身近なものに感じられたと喜びの声をいただきました。



ご案内

平成24年度父兄後援会支部懇談会開催日程

平成24年度の父兄後援会支部懇談会が下記日程のとおり開催されます。各支部の総会のほか、大学からの近況報告や父兄との個別面談、意見交換などが行われます。是非ご参加ください。詳細については各支部へお問い合わせください。

実施日	開催支部	会場名
8月4日(土)	福岡県中央	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	近畿	ラマダホテル大阪(大阪市)
8月5日(日)	福岡市	福岡ガーデンパレス(福岡市)
	福岡県東部	のがみプレジデントホテル(飯塚市)
	大分県	レンブラントホテル大分(大分市)
	宮崎県	宮崎観光ホテル(宮崎市)
	広島県	リーガロイヤルホテル広島(広島市)
	山陰	
8月18日(土)	沖縄県	沖縄ナハナホテル(那覇市)
	四国	松山全日空ホテル(松山市)
8月19日(日)	北九州	リーガロイヤルホテル小倉(北九州市)
	鹿児島県	鹿児島東急イン(鹿児島市)
	長崎県	ホテルニュー長崎(長崎市)
8月25日(土)	佐賀県	マリトピア(佐賀市)
	熊本県	熊本全日空ホテルニュースカイ(熊本市)
8月26日(日)	福岡県南部	ハynesホテル久留米(久留米市)
	山口県	山口グランドホテル(山口市)
9月2日(日)	関東・東日本	ハイアットリージェンシー東京(東京都新宿区)

体育祭 第15回学園体育祭

第15回福岡学園体育祭が、5月25日9時から福岡歯科大学体育館で開催され、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の学生が参加しました。

当日はあいにくの天気でしたが、玉入れ・バレーボール・バスケットボール等の各競技が行われ、熱戦を繰り広げる選手たちに盛んな声援が送られていました。



激励会 第6学年激励会

5月2日、本館学生食堂において、第6学年の歯科医師国家試験合格に向けての激励会が開催されました。田中理事長、北村大学長より激励の言葉、白水父兄後援会長や武井同窓会副会長より応援メッセージをいただきました。また、今春、歯科医師国家試験に合格した先輩3人から、学習方法等のアドバイスがありました。学生の代表として竹島朋宏君が全員の合格を誓い、お礼の言葉を述べました。



運動会 第10回サンシャインシティ運動会

6月24日、介護老人保健施設サンシャインシティ1階ダイケア・リハビリフロアにて第10回運動会が開催されました。

この運動会は入所者の日ごろのリハビリの成果を生かし、競技を通じて入所者とその家族、職員がともに楽しく汗を流し交流を深めること、また、施設看護・介護について理解を深めていただくことを目的として毎年行っています。

今年は借り物競走や綱引き、玉入れなどの競技が行われ、楽しいひと時を過ごしました。



我欲と向上心

イギリスの登山家であったマロリーは「なぜあなたはエベレストに登るのか?」と聞かれて「そこに山があるから」と答えたという。彼は山があれば無意識に登ってしまう習性を持っていた訳ではなく、人ができないことをしたいという挑戦欲、苦しさを乗り越えて

得られる幸福感を求めて、困難な挑戦を行ったのであろう。当時、エベレスト登頂はイギリスの国家威信をかけた計画であり、成功によって得られる栄誉の期待なども含めて、「山に登りたい」という我欲を持っていたに違いない。理由はなんであれ、人はその我欲によって、日常の苦しい訓練を自発的に行い、よりレベルの高い能力を求め、自

分や周囲が設定した限界を打ち破り、特別な人間に成長し、高い人格へ到達する。そして、その向上心が社会を成長させる原動力になる。そうであれば、私たちはもっと自分がやりたいことをやる必要があるのではないだろうか。ただし、我欲を満足させるために他人を踏み台にするようであれば、途端に社会を不協和に貶めてしまう。

平成24年度 福岡歯科大学 福岡県北同窓会総会 学術講演会

安本 勝観 (18期)

去る4月21日、リーガロイヤルホテル小倉にて、福岡歯科大学福岡県北地区同窓会 総会及び懇談会が開催されました。リーガロイヤルホテルは、JR小倉駅北側にあり、駅からは動く歩道の設置された空中歩道でつながれた非常にアクセスがよい施設です。また、近隣はさまざまな商業施設があり、Jリーグのサッカースタジアムも建設される予定があるなど、注目の地域でもあります。総会当日は、18期卒、中島 稔博先生による学術講演（演題「患者さんにわかりやすい治療を行うために」）もあわせて行われました。講演内容は、口腔内写真、レントゲンなどの必要な資料を患者さんにも理解しやすいように整理し、説明することによって、どのような効果もたらされるか、歯科医師サイド、患者サイドの両面からの説明でありました。すなわち歯科医師側の治療提案に対し、不信感をもたれることなく受け入れられることや、自費率の向上にも効果があり、本来必要ない質の高い医療を提供できるなど、すぐ



内容でも臨床で役立つ真剣に聞き入る先生方が多く見られました。講演会最後に質疑応答の時間が設けられ、さまざまな討論がなされ、大変有意義な講演会となりました。



懇親会の様子

総会、講演会と充実した時間を共有して、最後は同ホテル内で同窓会主催の懇親会が行われました。ホテルの料理に舌鼓を打ち、懐かしい面々と酒を酌み交わしながら、現在の歯科医療、今後の展望、また、大学のありかたなど、白熱した議論も見受けられました。会場では合わせてビンゴ大会も行われ、高額商品を獲得すべく番号を聞き漏らすまいとグラスを置き無言になる先生や、同時ビンゴでじゃんけんをする場面など、皆おなじみの楽しい時間を過ごされていました。あつという間に時間が過ぎ、同窓会のさらなる発展を祈念し閉会となりました。

今回の総会を通じ、今後の歯科医療の将来、同窓会の運営など、多岐にわたって考え、対応していく必要があると参加者一同が考えさせられました。非常に意義のある一日であったと考えています。

卒業生 NOW

島に帰って24年

百田 昌史 (5期)



フェイスブック友達の小柳進祐さんから、この原稿依頼がありました。それまで彼とは面識はなく、FBを通じての知り合いです。

彼が、福歯大の臨床教授であることも、同窓会の広報担当者であることも、大変失礼でしたが知りませんでした。ただFB上で興味のある投稿があったので、友達申請しました。

私は5期生です。長崎県に属する離島、杵岐の島で開業しています。生まれ育った島です。昭和63年6月4日に開業して24年。帰った当時、4万あった人口は、現在3万を切っています。開業当初、患者さんは子供たちが主であったのに、今は変わり、お年を召した方が中心です。まだまだ、過疎化が進んでいます。このままでは島に人がいなくなるのではと危惧し、この島をどうにかせねばと考えるようになりました。

幸い私の周りにはインターネットで島を盛り上げようとしているITの達

者な私より少し若い人達があります。私も何か杵岐の為にできないかと思っていて、彼らに会い昨年の春からFBを始めました。この1年間にFBを通じて、いろんな人と出会いました。まったく、面識の無かった人たち、学生時代の友達、かつて患者さんだった杵岐から出ていった子供たち。

島は海を隔てて交通の便が悪く、厳しい環境ですが、杵岐の活性化をいつも考えています。私個人としては、市民公開講座、杵岐島健康大学の講師を歯科代表で行ったり、自転車レース、杵岐サイクルフェスティバルに無謀にも出場したりしています。雇用の創生。人口の拡大。なかなか厳しいですが、せめてもの交流人口の増大を!と。

自然豊かな、食のおいしい、人の情の熱い島 杵岐の島に遊びに来て下さい!



左が筆者。右は同窓の渡辺猛士さん。

同窓生からの手紙

伝統に恥じることの無い更なる活躍を

持山 達郎 (13期)

昭和48年に開校し40周年を迎えた今、我が母校福岡歯科大学も福岡学園と名称も新たに、時代の変化に対応し、将来を見据えて、歯科から口腔医学という理念、つまり、全身の中の口腔という位置づけの基に、医科歯科総合病院の拡充に努力していると聞き及んでいます。

様々な社会の変化とともに、医学、歯科医学の進歩は、社会環境の改善と相俟って疾病構造に大きな変化をもたらしています。そして、それに対応すべく我々歯科界も、大きな改革が求められています。

我々同窓も、この40年間で4千人近い卒業生を歯科界に送り出しています。諸先輩方も、様々な分野、様々な地域で活躍されています。

これらは先輩方の努力と同窓会活動に大きな尽力をなされた結果だと敬意を表しています。それらの礎をさらに発展させ、後輩の先生に引き継ぐ事を使命とし、努力を重ねていければと考えています。私は、13期生として昭和60年に入学し平成3年に卒業して21年が経ちました。卒業後、旧第二口腔外科に入局し、現常任理事である本田武司先生のもとで歯科医療を学び、色々な経験を積ませていただきました。そして現在は父から引き継いだ福岡市天神の診療所で診療しています。また、今年度、福岡歯科大学同窓会も改革を旗印に、宮口会長より微力非才ではありますが、専務を拝命いたしました。同窓生と共に母校が歯科界、医療界のリーダーシップをとろうとしている事を誇りに思い、ささやかながらその協力を惜しまないつもりです。

最後に、そろそろ福岡歯科大学も伝統という言葉の名乗っても良いのではないのでしょうか。この伝統に恥じることの無い更なる活躍を祈念いたします。

矯正歯科医人生の1ページ

寺谷 烈 (18期生 / 寺谷歯科矯正歯科クリニック (佐賀県佐賀市))



クリニック内

生まれ育った場所で患者さんに矯正治療の必要性を話しています。

平

成8年卒業の寺谷烈と申します。卒業後、成長発達歯学講座矯正歯科学分野に入局し、松本光生元教授、石川博之教授のご指導のもと臨床、教育、研究に13年間携わりました。退職後、福岡市天神の下田哲也(12期)、直子(15期)先生の矯正歯科専門クリニックに2年間勤務し、矯正治療全般を経験させていただきました。

現在、40歳を迎え平成23年9月より出生地の佐賀県佐賀市に帰省し、70歳になった父とともに矯正歯科医として勤務しています。当初、学生時代から21年間住み慣れた福岡を離れることは、とても寂しく思いました。しかし、佐賀で活躍中の県人会OBの先生方や地元の方が迎え入れてくれて、とても嬉しく感じました。

私は、矯正歯科医としての理想と戦略を明確にしているつもりでしたが、地域性の違いや父(一般歯科)とのスタンスの相違等が現実として目の前にあり、迷い

はなかったのですが色々頭を痛めました。そこで、クリニックの医療理念や職務責務の確立、システムの構築等を行い円滑に進むように努力しています。まだ、理想にはほど遠いですが、私の信念等がゆらぐと進みません。私にはすべきことが沢山残っており、人様にアドバイス等出来る状態ではありませんが、患者さんの気持ちを悟り、Evidence-Based-Medicine(EBM)をもとにした矯正治療を提供できるように努力を続けなければならないと思っています。



トリートメントコーディネーターと

また私は、東北大学の先生方に研究でお世話になりました。震災には本当に心痛いたしました。私達は、仕事を続けられる幸せを感じ、守るべき家族やスタッフ、信頼してくれる患者さんのために笑顔でいなければなりません。

今後も、石川博之教授の教えである矯正家だけでなく矯正医として地域医療に貢献するつもりです。私の矯正歯科医人生の1ページとして。お世話になった福岡医科大学、同窓の皆さまに深く感謝申し上げます。

一開業6年目に気が付いたこと

丸山 貴司 (20期生 / まるやまデンタルクリニック (大阪府吹田市))

頑張つて仕事をしない

皆

様こんにちは。20期生の丸山貴司と申します。

大学卒業後は父の診療所で7年間勤務しておりましたが、自分が理想とする診療が行えず、また、父との対立から診療所を出て、開業いたしました。ほとんど蓄えも無く借金まみれ。それから丸5年、それこそ死に物狂いで頑張ってきました。

また患者様の笑顔の為に、より良い歯科の技術、接客態度などを患者様に提供していきたいと思ひ頑張り続けてきました。

しかしながらリーマンショック以降、世の不況の煽りからか患者数が伸び悩み、増やすように頑張り、スタッフにも随分負担をかけたことだと思ひます。スタッフの顔にも疲れの色が見えたり、それこそ患者様から「最近疲れてる?」と聞かれることも目にしたたり、自分の理想として患者様にスタッフの健康を気遣わせるこんな惨めなものなのか?と自問自答して悩みました。



そんなモンとした日が続きましたが、通勤中のラジオでとてもすばらしい言葉を聞きま

した。それはとあるプロスポーツ選手の恩師の言葉で、次のようなものです。頑張ることは「頑な」を「張る」こと。辞書にも「頑な」は「愚かで下品なさま」と書いています。でも、人間はがんばって生きていかないとけません。では、どうがんばるか? 周りにも幸せを与えるように心晴れやかに笑顔で「顔晴る」をすれば頑なにならず活き活きとして気持ちよくがんばれる。

この言葉を聞いた時どれだけ自分は頑なに愚かで下品になっていたのだろうと気付きました。

気持ちを变えるのは簡単な事ではありませんし、テレもあります。が自分なりに顔晴っている、最近、患者様が「なんか、最近〇〇さん、いい笑顔やね。」とスタッフと話をしている光景を目にするようになってきました。

やはり、「頑張る」は周りに「プレッシャー」しか与えないものではないのです。周囲に「顔晴る」を促す「がんばる」なのです。



FROM STUDENTS



大学院生活を振りかえって

西村 紗和 (大学院4年)

私は、成長発達歯学講座矯正歯科学分野に所属し、生体構造学機能構造学分野で研究をさせて頂いています。大学院生活が早いもので終盤に差し掛かっています。この4年間は、臨床、研究、教育に携わらせて頂き充実した日々を過ごしてきました。このメッセージを書かせて頂くのをきっかけに大学院生活を振り返ってみたいと思います。

私自身が長期入院をしていた経験を生かせるようなことはないかと模索していた頃、小児科医に対して「歯が生えてこない」と小児がん経験者から訴えが続いたことを知り、その原因について関心を持ちました。その後、石川教授ならびに沢教授のご指導のもと久留米大学と共同研究を開始させて頂くこととなりました。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

大学院生活を「起承転結」で表しますと、「起」研究計画を立案後、「承」患者さんのデータ収集を行いました。「転」データの分析方法に苦労しつつも、「結」抗腫瘍薬によって引き起こされる歯の形成障害について1つのエビデンスを見つけることができました。漠然とした思いが、研究の成果となって表れた時は、とてもうれしかったです。

根気強く導いて下さった石川教授、数えきれないほど御指導をして下さった沢教授、研究でお世話になった諸先生方、支えて下さった多くの先生方、協力して下さいました患者さん、多くのつながりや縁に対し感謝の気持ちでいっぱいです。大学院生活も残りわずかになりましたが、お世話になった皆様へ少しでもお返しができるよう、日々の生活を大切にしていきたいと思っています。まだまだ未熟者ですのでこれからも御指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

未来年表に記した一歩

安田 梨沙 (大学3年)

「編入試験、受けてみたら」夫のこの一言が大きな転機になりました。

出産してから、自分と家族の未来年表をつくる機会がありました。五年後、十年後、二十年後の自分…。家庭を持つ女性の雇用を増やそうとは言われていますが、まだまだ厳しいのが実情です。それを感じて、これから先の人生をどうしたいのか考えていた時のことでした。

歯科医師への一歩を踏み出し、生活は一変しました。片道二時間の通学に、二歳になった息子の子育て、久しぶりの勉強と毎日が慌ただしくも充実しています。もともとは国語が好きで、日本文学を専攻していたのですが、理系の勉強は苦手でした。入学してからも、初めは理系の基礎がさっぱり分からず、おまけにプランクも感じ、とにかく必死でした。生化学や細胞生物学の先生方に、変な質問ばかりしていたように思います。ですが、生体にこれだけ緻密で正確なシステムが備わっているんだということが次第に面白く感じられるようになりました。

あっという間に一年は過ぎ、家族や友人、先生方のサポートのおかげで、特待生に選出して頂きました。努力が実って嬉しかったのはもちろんですが、頑張ればできるということを感じて、ほっとしたのも事実です。

大人になっても学べることは幸せです。それが、人のお役にたてる職業に就くためとなれば尚更です。遅いスタートに焦りを感じることもありますが、まずは一步一步。一丸となって支えてくれる家族、拙い質問にも丁寧に答えて下さる先生方にこの場をお借りして感謝を申し上げます。



FROM PARENTS

生涯学習

技工士学校を卒業、郷里の長崎に帰り歯科技工士として勤務しはじめた9年。仕事には慣れたが、一生このままで終わるのかという疑問を感じはじめた頃、技工士時代の恩師に言われた。「人間一生勉強、ぬるま湯に浸かったような生活をしてはいけない。」目が覚めた。そこで一念発起、今まで心にかけていた思い。そう歯科大受験に再チャレンジするために、猛勉強を始めた。久しぶりにする勉強の辛いこと。さびついた頭をフル回転させ、何とか福歯大生となったのは、31歳の時である。卒業後、行列のできる歯科を夢見て開業するも、現実はそのなかに甘くなかった。悪戦苦闘しながら日々を過ごしている。学生時代に生まれた2人の息子たちも、父に似て協道に逸れそうになりながらも、現在では福歯大生となった。考えて見れば、私、弟、息子たちの4人が福歯大のお世話になっている。できれば某携帯会社のように、家族割でもあれば助かるのになど、診療の合間に思ったりもする。

近い将来、さらに高齢化が進み人口の4割が高齢者になると言われている。有病者の訪院が増え、歯科医師にも医科の知識がさらに求められる時代が来ることになる。また患者のニーズは多種多様化し歯科医師として多くのスキルが必要となる。福岡歯科大学が掲げている「口腔医学」という理念には、学生諸君が学ぶべき臨床学、人間学が包括されているように思える。

私の息子たちも含め学生のみなさんには、必ず通らなければいけない国家試験、卒後研修、開業という流れに乗り遅れないために、生涯学習を心掛け、自己研鑽に励んで欲しいと思う。そして常に志を持って、患者の人生に寄り添えるような、そんな歯科医師になって欲しいと心から願う。



小川 見一郎 様
(父兄後援会理事)

学生諸君少しの怖さを持って

我々の業界だけでなく、日本全体暗い空気が漂っている。みなさんには今一度自分の人生を考えてもらいたい。法学部を出た学生は全て法曹界に入り検事、弁護士になるのか、答えは否である。夢をかなえられるのはごく一部で、ほとんどの人たちは畑違いの職業につき何の疑問も持たず働いているのが現実だろう。しかし歯科大に入学したあなた方は全員、歯科医師になるため入学したはずだ。貴重な20歳代、時間とお金を費やし歯科医師にならずに専門学校卒という資格でサラリーマンになるために入学したのか。今の国家試験は定員方式の試験になっている。君たちはその現実を受け入れ、全国の歯科大生の中での自分の立ち位置を考える利口さを持ってほしい。何とかかなと思っている学生がいるのではないだろうか、決してならないということを肝に銘じてほしい。

一生に一度位、これでもかというほど勉強するのも面白い、良い思い出になるし自信にもなる。勉強の裏づけがあるから自信を持って治す為人の体にメスを入れたり、歯を抜いたり出来るのだから。患者さんのことを思い世間というものに少しの怖さを持って一生懸命仕事していれば、患者さんはお金を払いながらお礼を言ってくれるし、お菓子などお礼の品物をくれたりする。自分のしたことに感謝しているのだと思うとやりがいのある仕事だと思ふ。ワーキングプアといわれるこの業界そんなに悪いものじゃない。頑張れ学生諸君。



塩次 稔浩 様
(父兄後援会理事)

平成25年度 入学試験日程

福岡歯科大学

歯学部								
区分	AO入試Ⅰ期	推薦・指定校推薦入試	一般入試A日程	センター試験利用入試Ⅰ期	一般入試B日程	センター試験利用入試Ⅱ期	AO入試Ⅱ期	学士等編入学試験
募集人員	約30名	約15名	約35名	約4名	約5名	約4名	約3名	若干名
願書受付期間	H.24.8.6(月)～9.7(金)	H.24.10.22(月)～11.9(金)	H.25.1.4(金)～1.31(木)		H.25.1.21(月)～2.20(水)		H.25.2.22(金)～3.13(水)	H.24.10.29(月)～11.29(木)
試験日	H.24.9.9(日)	H.24.11.10(土)	H.25.2.2(土)		H.25.2.21(木)		H.25.3.14(木)	H.24.12.3(月)
合格発表日	1次 H.24.9.11(火) 2次 H.24.10.3(水)	H.24.11.14(水)	H.25.2.6(水)午後5時		H.25.2.22(金)午後5時		H.25.3.15(金)	H.24.12.5(水)
試験会場	福岡歯科大学試験場及び大阪試験場		福岡歯科大学試験場及び東京試験場		福岡歯科大学			
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学学務課入試係 TEL.092-801-1885(直通) FAX.092-801-0427 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp ●E-mail gakumu@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/colhp						 ▲携帯電話からのアクセスはこちらから!	

福岡医療短期大学

歯科衛生学科									専攻科・口腔保健衛生学専攻		
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)	一次募集	二次募集	三次募集
募集人員	約10名	約10名	約5名	約15名	約5名	若干名	若干名	約35名	約15名	約5名	若干名
願書受付期間	H.24.10.1(月)～11(木)	H.24.11.1(木)～8(木)	H.24.12.3(月)～6(木)	H.25.1.4(金)～30(水)	H.25.2.1(金)～13(水)	H.25.2.18(月)～3.6(水)	H.25.3.11(月)～25(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。	H.24.12.3(月)～6(木)	H.25.1.4(金)～30(水)	H.25.3.11(月)～25(月)
試験日	H.24.10.13(土)	H.24.11.10(土)	H.24.12.8(土)	H.25.2.1(金)	H.25.2.15(金)	H.25.3.8(金)	H.25.3.27(水)		H.24.12.8(土)	H.25.2.1(金)	H.25.3.27(水)
合格発表日	H.24.10.19(金)	H.24.11.15(木)	H.24.12.13(木)	H.25.2.7(木)	H.25.2.20(水)	H.25.3.13(水)	H.25.3.28(木)		H.24.12.13(木)	H.25.2.7(木)	H.25.3.28(木)
試験会場	福岡医療短期大学						福岡医療短期大学				

保健福祉学科								
区分	指定校推薦入試	公募推薦入試(I)	公募推薦入試(II)	一般入試A日程(社会人含む)	一般入試B日程(社会人含む)	一般入試C日程(社会人含む)	一般入試D日程(社会人含む)	AO入試(社会人含む)
募集人員	約10名	約5名	約5名	約5名	若干名	若干名	若干名	約15名
願書受付期間	H.24.10.1(月)～11(木)	H.24.11.1(木)～8(木)	H.24.12.3(月)～6(木)	H.25.1.4(金)～30(水)	H.25.2.1(金)～13(水)	H.25.2.18(月)～3.6(水)	H.25.3.11(月)～25(月)	詳細は入試係までお問い合わせください。
試験日	H.24.10.13(土)	H.24.11.10(土)	H.24.12.8(土)	H.25.2.1(金)	H.25.2.15(金)	H.25.3.8(金)	H.25.3.27(水)	
合格発表日	H.24.10.19(金)	H.24.11.15(木)	H.24.12.13(木)	H.25.2.7(木)	H.25.2.20(水)	H.25.3.13(水)	H.25.3.28(木)	
試験会場	福岡医療短期大学							
問合せ先	〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1 福岡医療短期大学入試係 TEL.092-801-0439(直通) FAX.092-801-4473 ●ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcol/ ●E-mail gakumuj@college.fdcnet.ac.jp ●携帯電話用ホームページURL http://www.fdcnet.ac.jp/jcolhp						 ▲携帯電話からのアクセスはこちらから!	

キャンパス歳時記

5月22日に開催された評議員会、理事会終了後、学園理事、監事、評議員と教職員との親睦を図る「ガーデン研修会」が、本館学生食堂南側庭園で実施されました。研修会には多数の教職員が参加し、準備されたベコンや焼きそば等の料理に舌鼓をうちながら、学園役員との懇談を深めました。



編集後記

皆様、SNSは利用されていますか?編集子は最近Facebookを始めました。旧友とネット上で再会できるだけでなく、学生さんたちの素顔も知ることができ、思っていた以上に楽しんでいます。本学は創立40周年を迎えますが、その歴史の中で、さまざまな繋がりやの巨大な「ネットワーク」ができています。そのネットワークの中に『NewSophia』も位置を占めることができているか?皆様がSNSを利用されるときに話題にされ、繋がりを太くすることに貢献できるような紙面をお届けできればと思っています。(NT)

オープンキャンパス開催のお知らせ

福岡歯科大学・福岡医療短期大学
平成24年度・オープンキャンパス情報

本学への入学希望者をはじめ、そのご家族や高校・予備校の先生方を対象としたオープンキャンパスを下記の日程で開催いたします。各大学の入試係までお問い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

詳しくはホームページで公開中!

福岡歯科大学

実施日
7月29日(日)
8月26日(日)

- 内容
- ◎模擬実習
 - ◎施設見学
 - ◎昼食会
 - ◎大学概況説明
 - ◎入学試験説明
 - ◎個別進学相談会等

大学生と同じ実習を体験したり、在校生から直接話を聞けたりと、キャンパスライフを体験できる充実の内容です。



メールでのお申込みはこちら



施設見学



模擬実習

福岡医療短期大学

実施日
8月 3日(金)・24日(金)
9月 8日(土)・29日(土)
10月13日(土)
11月24日(土)
12月 8日(土)

- 内容
- ◎施設見学
 - ◎カリキュラム説明
 - ◎在学生の声紹介
 - ◎入学試験説明



メールでのお申込みはこちら



歯科衛生学科:歯磨き体験



保健福祉学科:介護施設見学